



だより



R7.5.7 Vol.5

関わり

先日、久しぶりに遊びに来た8カ月近くになった孫を抱っこすると、ギャン泣きされました。「人見知りが始まったので…。」と息子嫁が申し訳なさそうにフォローしてくれましたが、私の心もギャン泣きでした。次の週、「お前ら（息子夫婦）、今日は二人で出かけたいやろ？じいちゃんが孫を見てやるけん！」と半ば強引に子守り、もとい、孫守りをすることにしました。息子たちが出かけて行った瞬間、孫の表情が曇りましたが、あの手この手で。（笑）あら？と思ってお尻に顔を近づけると大きい方をしている模様。急いでおむつをかえようとする、足をピンコピンコするもんだから、う〇こが…「頼む！動くな！」と私は軽いパニック…。



あうー そんなこんなで6時間ほど孫と二人で過ごしました。後日、また孫に会いに行くと、じっと顔を見られました。恐る恐る抱っこをすると今度は笑顔に変わりました。

関係は関わった時間なんだと改めて思いました。

昭和 100 年！

ある研究集会で、「今年は昭和 100 年です！」そんな話がありました。昭和、平成、令和と流れた時間の長さを改めて感じました。「そんな昭和な考え、通用しないよ！」よく聞くセリフです。そうでしょうか？時代と社会は目まぐるしく変わっていますが、別に人間は何も変わっていません。（瞬間移動ができたり、透明人間になれたりしませんよね？笑）大切にしないといけないものは、昭和どころか、もっと昔から何も変わっていないと思います。「惻隱の情」という言葉があります。武士道の中でも大切にされてきた『人を思う気持ち』です。

教育においても子育てにおいても、時代の流れの中で見失ってはならないものはたくさんありますね。



四方山話真穴 ver2. 其の五(シン・春祭りに思う そいうものだ！)

アルコールの強要はハラスメントに当たる、今や常識ですね。飲み会の席でも、「僕はコーラで…。」そんな若者もよく見かけます。（そうそう、自由に好きなものを飲むことをスマートドリンク！なんて言いますね。）「今のままでいい。」「自分を大切に。」そんな言葉もよく聞きます。大切なことです。しかしそれとは違えると「？」となります。ある会合で、役員を決める場面がありました。難航しましたが「私でよければがんばります。」と引き受けてくださった方がいました。その副役員を決める際、「何にもすることがないんだったらやりますが…。」といった発言があり、私は耳を疑いました。別の会合の宴の席で、その組織の長に挨拶もしない若者が多いことにもびっくりしました。（これ！今は当たり前ですか？）

真網代の春祭り。今年も子供から大人まで、各種団体に学校でも練っていただきました。（ありがとうございます。）親から子へ、子から孫へと伝えられてきた祭りには当然しきたりがあり、それぞれの型、作法もあるのだと思います。それらはすべて「そいうものだ！」と伝えられてきたのではないのでしょうか。礼儀も「そいうものだ！」なのだと思います。もちろん、悪習に対しては、改善も必要ですし、「なぜ？」「どうして？」の問いかけを忘れてはいけません。ハラスメントへの意識向上もそうした流れの中で生まれたものでしょう。しかし今はそれをはき違えた結果も出てきている気がします。「自分の好きなようにしたい。」「しんどいからやめとこ。」「めんどくさいからしたくない。」「これが自分だから。」「…『なら、一人で無人島で暮らせばいいんじゃない？』そう思います。

「もうええ歳やけん、しんどいけど…やらんとな！」練りの中でそうおっしゃっていた方がいました。人が人と暮らしていくとは「そいうものだ！」と私は思います。そして私が長である組織ではそれを指導するうざいリーダーでいようと思います。（許せ！真穴小の職員たちよ！笑）

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。